

初夏の山歩きを楽しむ

6月29日、院内地域の文化財や史跡などを歩いて巡る「院内歴史と産業遺産探訪」が開催されました。参加者たちは薫風苑を発着点に、院内油田跡地や標高200mにある山根館跡まで、歴史に触れながら初夏のウォーキングを楽しみました。

主な内容

- 後期高齢者医療保険……………P 2～3
- 福祉医療等受給者証など……………P 4
- 福祉事務所から……………P 5
- 日沿道工事の進捗状況……………P 6

vol.116

2010

7.15

<http://www.city.nikaho.akita.jp>

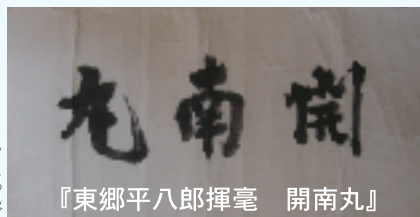
白瀬南極探検隊100周年記念特集

その四



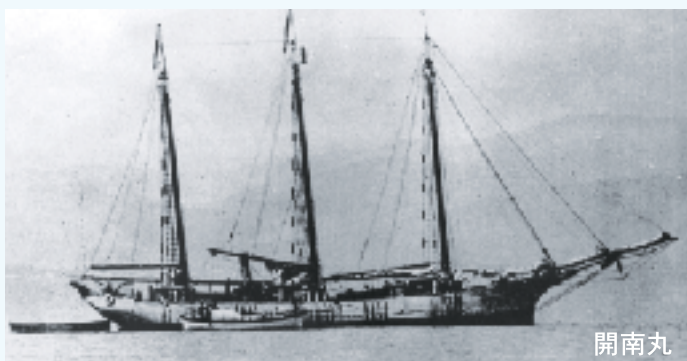
南極探検船・開南丸の母体となった第二報効丸は、同年3月に進水したばかりの木造帆船で、報効義会が所有していた船でした。報効義会は郡司成忠海軍大尉を主宰に、海軍退役者を中心として千島を開発していました。

吉が候補船を探し、横浜港の「孟春号」や鳥羽商船学校の練習船「天城」、海軍の廃艦「盤城」などが候補に挙がりました。しかし老朽化や海軍の了解が得られないこと、また資金不足の理由などから、それよりも小さい200トンの帆船を探すことになりました。



『東郷平八郎揮毫 開南丸』

白瀬南極探検隊は、明治43年（1910）11月29日に南極へ向け出航していますが、当初の計画は8月5日で、3度も延期しています。原因は船の調達がうまくいかなかったためでした。



開南丸

思いは複雑でした。それでも、出航1カ月前の10月20日に2万5千円で船を譲り受けることができました。船は石川島造船所で急ピッチに改造され、18馬力の補助エンジンや船体保護の鉄板などが取り付けられ、総トン数204トン、長さ30・4mの木造機帆船「開南丸」となります。出航8日前の11月21日に試運転が行われていました。南を開く船という意味の「開南丸」は、日露戦争でバルチック艦隊を全滅させたことで有名な東郷平八郎元帥が命名しています。



白瀬南極探検隊記念館は夏休みは毎日開館、市内小中学生は入館料無料です

白瀬日本南極探検隊
 100周年記念事業推進事務局
 ☎ 38-4670
 白瀬南極探検隊記念館
 ☎ 38-3765



新しらせ

9月10～12日、秋田港に入港する南極観測船「新しらせ」は開南丸の62倍のトン数、4・5倍の長さがあります。南極公園にあるほぼ実寸大の開南丸と新しらせを比較してその大きさを体感してください。

板の張り直しなど2度目の改造を行っています。その後、南極ロス海まで到達、明治45年6月20日に日本に無事に帰国したときにも、船体に損傷がなかったといわれています。開南丸は報効義会に払い下げされた後、大正2年秋に和歌山県沖で沈没するという運命をたどります。



未知に挑む
 南十字星のもとに

南極探検の候補船と
 木造機帆船「開南丸」

企画・編集／にかほ市広報委員会 発行／にかほ市役所
 〒018-0192 秋田県にかほ市象潟町字浜ノ田1番地
 ☎ 0184-43-3200（代表）☎ 0184-43-7510（直通）
 ホームページアドレス <http://www.city.nikaho.akita.jp> 電子メールアドレス info@city.nikaho.lg.jp



TEAM BASE CAMP

にかほ市は2022 日本招致のチームベースキャンプです。

広報にかほ は、にかほ市ホームページでもご覧いただけます